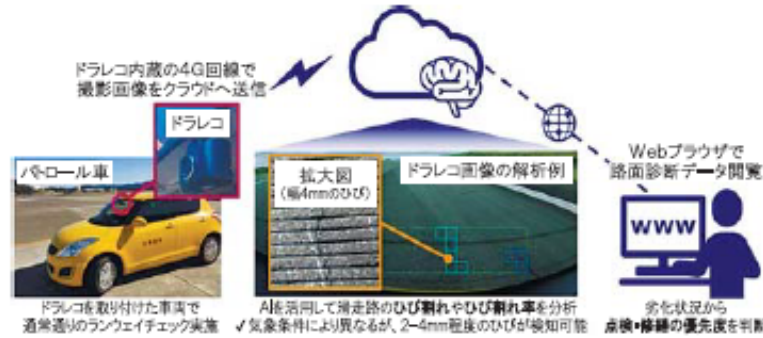


【南紀白浜エアポートと NEC、オリコンサル ドラレコ点検で定量把握が可能】



パトロール車によるドラレコ点検（左）とAI解析の様子

空港滑走路での日常点検にドライブレコーダーの撮影を基にした「AI（人工知能）によるき裂・損傷箇所の自動検知」を取り入れることで、損傷の見落としリスクを軽減

に輝いた。
南紀白浜エアポートと日本電気（NEC）、オリエンタルコンサルタツの3社が実用化した「ドライブレコーダー×AI」を活用した空港滑走路の調査・点検（ドラレコ点検）が、土木学会インフラメンテナンス総合委員会が主催する2022年度インフラメンテナンスプロジェクト賞に輝いた。
南紀白浜エアポートと日本電気（NEC）、オリエンタルコンサルタツの3社が実用化した「ドライブレコーダー×AI」を活用した空港滑走路の調査・点検（ドラレコ点検）が、土木学会インフラメンテナンス総合委員会が主催する2022年度インフラメンテナンスプロジェクト賞に輝いた。

させ、点検者の技術力に依存しない定量的な把握を可能としたことが評価された。
3社は、この技術の実用化によって、主に保守点検の人材に限られている地方空港で空港職員が目視で実施している滑走路の日常点検を、ドラレコの画像データによる自動点検に置き換えることで、軽度なき裂・損傷を早期に発見・補修する予防保全の実施にもつながり、空港のさらなる安全・安心を実現できるとしている。